

Special Interview

# 大黒摩季

## 「6年間の休業を経て、24色のクレヨンが、48色になりました」直球で歌う、人生の幅広い色彩

6年の活動休止を経て、2016年夏にアーティスト活動を再開。国民的ヒット曲「夏が来る」『ら・ら・ら』の印象そのままのエネルギッシュな姿でカムバックしてファンを熱狂させた大黒摩季。音楽から距離を置いていた6年間は、スポットライトの下の姿からは想像がつかない葛藤の日々だったという。

「メンバーの音楽性が合わなくなってバンドが解散する、みたいなポジティブな引退じゃなくて、私の場合、病気に全てを奪われたから…悔しくて『なぜ、私が?』という思いでいっぱい。これまで音楽に関しては悩まずに進んできたけど、主婦として家に入っても、どこから手をつけていいかわからない。区役所に行ったりバスに乗ったり、全てをゼロから学び、中学から社会人までの生活を一通りおさらいした感じ。

病の中で、挫折しかかった夢もあった。自分自身と家族に向き合う日々の中、決して明るいことばかりでない人生や心の風景を、たくさん目の当たりにした。

「この6年間に、音楽業界とは全然違う種類の人も出会ったし、感性で言うと24色のクレヨンが48色になりました。ビビッドな色ばかりでなく、くすんでアンニュイな色も増えた。でも、それだからこそ作品がカラフルになる。復帰後に作った『My Will ~ 世界は変えられなくても ~』には、そんな自分の心境がたまげほほど(笑)出ていて、完全に大黒摩季物語。無邪気な家族

を見ているだけで泣けてくる。普通の幸せってこんなに高価だったんだ…」って。活動休止前は柔らかな言葉で説得するような部分があったけれど、今は直球に戻った。音楽に対しても、より純度高く付き合っているようになったと思う。

デビューから25年。ともに熱くなってきた同世代のファンも子供がいたり仕事場で部下や後輩を持つ大人の年齢になった。「新曲『Higher? Higher?』のメッセージは『中年よ熱くなれ!!』です。体温を上げよう。体が温まれば、元気が出てくる。『My Will ~ 世界は変えられなくても ~』で伝えたかったことは、大上段に世界のことを言うんじゃないで、まず身の丈から変えてゆこうってこと。そのためにも快樂主義は大事だと思って。私たち昭和世代は、生きるために頑張りすぎて自分を置き忘れていた。大人たちが率先して熱く気持ちよく、輝かしく楽しんでいた。子供たちがそれに憧れる。憧れや感動は教えるんじゃないで、身をもって見せなくちゃ。教育現場で教えている時でも、私が一番楽しそうにしてれば、子供たちがハマってくれる。

2017年は、そんな大人たちへの応援ソングを掲げて全国ツアーへ。その数47都道府県。「私と共に時代を生きてきた同朋のような皆さんに、元気に戻ってきたご挨拶回りに向きます」。パワフルでカラフルな、現在形の大黒摩季に会える。

**「Greatest Hits 1991-2016 ~All Singles+~」**  
STANDARD盤  
3CD(全48曲収録)  
JBCZ-9035~37  
3,400円(税別)



**BIG盤(A4サイズ)**  
4CD(全62曲収録)+1DVD  
(初回生産限定)  
JBCZ-9038~41  
9,259円(税別)



**"Maki Ohguro 2017 Live-STEP!! ~Higher? Higher? 中年よ熱くなれ! Greatest Hits+~" 2017年**

2月25日 埼玉・羽生市産業文化ホール 大ホール  
3月4日 茨城・常陸太田市民交流センター ハレティホール 大ホール  
3月5日 栃木・栃木文化会館 大ホール  
3月11日 愛知・安城市民会館 サルビアホール  
3月12日 兵庫・加古川市民会館 大ホール  
3月20日 千葉・多古町コミュニティプラザ文化ホール  
3月25日 長野・大町市文化会館  
4月15日 山形・やまぎんホール(山形県民会館)  
4月22日 静岡・磐田市民文化会館  
4月23日 岐阜・パロー文化ホール(多治見市文化会館)  
4月29日 山梨・コラーニー文化ホール 大ホール  
5月7日 千葉・千葉県文化会館 大ホール  
5月14日 神奈川・ハーモニーホール座間  
6月2日 東京・かつしかシンフォニーヒルズ モーツァルトホール  
6月3日 埼玉・狭山市市民会館 大ホール  
6月17日 広島・三原市芸術文化センター ポゴロ  
6月18日 兵庫・たんば田園交響ホール  
6月24日 群馬・伊勢崎市文化会館 大ホール

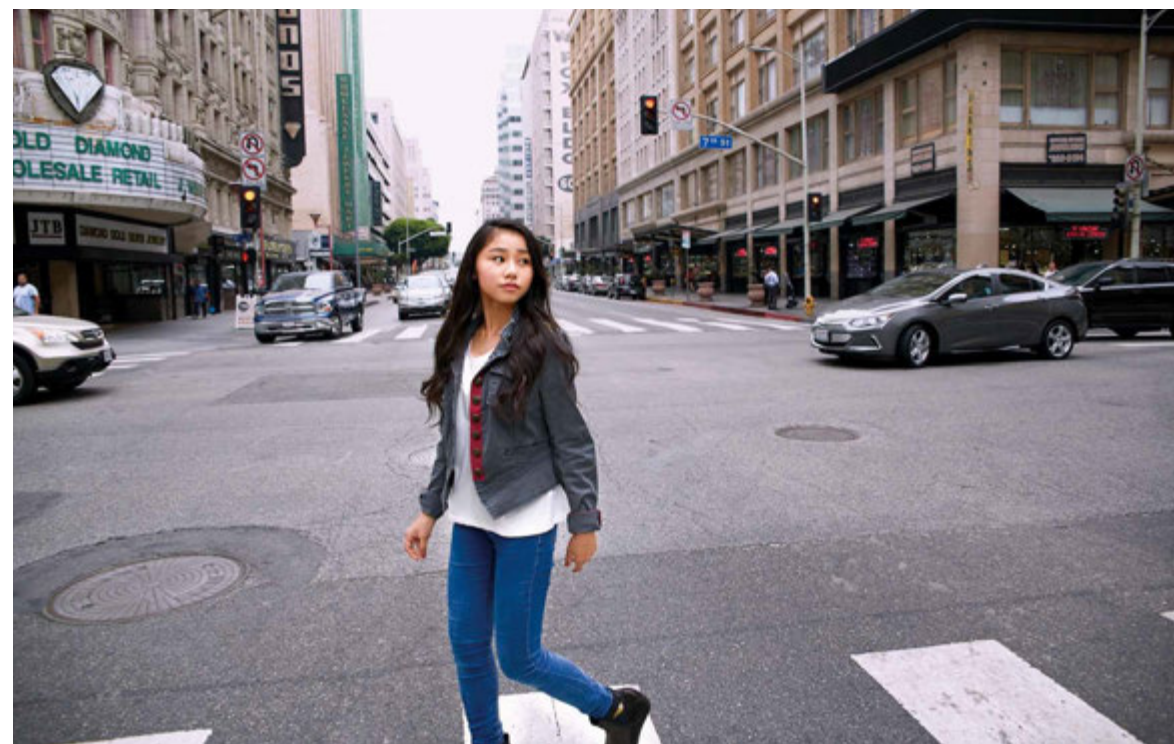
詳細は、大黒摩季公式ホームページ <http://maki-ohguro.com/>

**Profile** 札幌市出身1992年『STOP MOTION』でデビューし次々にヒット曲を放つ。2010年病氣治療のため休業。地元・北海道の長沼中学校に校歌を寄贈。東日本大震災・熊本地震への復興支援など社会貢献活動や、学校での音楽指導を行う。2016年8月、アーティスト活動を再開。好きなマールデザインはメイトルキャット。

スタイリスト:村井沙織 ヘアメイク:高野孝喜

Music

# 17歳、型破りな歌声で観客の魂をつかむシンガー、RIRI 2017年、ブレイクの予感!



小柄な体のどこからこんなにパワフルな歌声が? 『AI THE BEST TOUR』のサプライズゲストとして初めて歌った17歳のシンガー-RIRI。その破格の歌唱に、会場の東京国際フォーラムは興奮に包まれた。RIRIは1999年生まれの現役女子高生。2016年6月にデジタルファーストシングル『COLOR ME』をリリース、続くセカンドシングル『GOLD』はメジャーデビュー前にも関わらず iTunes R&B、ソウルランキングで1位を記録した。8月には SUMMER SONIC2016にも出演し堂々たるパフォーマンスを披露。瞬く間に今最も注目される新人アーティストの座に登りつめた。全身からほとばしる歌への

情熱の源は、11月にリリースされた EPのタイトル通り『I love to sing』。2017年、いよいよメジャーデビューを控える RIRIに目が離せない。



**Indie 1st EP**  
『I love to sing』発売中  
TMAH-0001 1500円(税込)  
<http://www.ririririri.com>  
Instagram@riri\_tone  
Twitter @riri\_tone

Play

# 噂の「TMK」(透明感)美少女、唐田えりかドラマに、雑誌モデルに活躍中

高校生時代に、バイト先の千葉県のマザー牧場でスカウト。ソニー損保・新イメージキャラクターに抜擢され、2016年には連続ドラマ『こえ恋』に出演して注目度も急上昇中の女優、唐田えりか。その魅力は、ファンの間で「TMK」と呼ばれる、透明感。透き通るような肌とサラサラヘア、ピュアなスマイルには、見る者の心を浄化するような魅力が。167cmの長身を生かして、モデルとして雑誌でも活躍。「小さい頃からモデルを夢見ていた」というだけあり、身につけた服をボーイッシュにもガーリーにも自在に着こなす。カメラの前での変幻自在な表情には、早くも女優の存在感が見られる。フィルムカメラにはまっている彼女の公式インスタグラム(crika\_karata)にも注目!!



**Profile** 1997年千葉県出身。特技は書道。2015年ソニー損保・新イメージキャラクターに抜擢される。昨年、back numberのMVにも出演し話題に。公式サイト <https://karataerika.officialsite.co/>

# NEXT BREAK Profile Vol.10

杉山麻衣さんが、いまイチオシの俳優をプロフィール。新しい才能をいち早くキャッチ!

## 毎熊克哉

インディーズ(自主製作)映画ながら、東京国際映画祭スプラッシュ部門で受賞した『ケンとカズ』で、主演の一人カズを演じて、そのリアルな演技が絶賛された毎熊克哉。ダンサーとして舞台上立ち、映画製作と演技を学び俳優に。若くしてインディーズと商業映画の両方の世界でのキャリアは豊富。「商業作品では小さな役もやり、インディーズ作品ではメインの役を演じて実力を試せました。インディーズ映画の製作は“お仕事”ではなく、やりたいからやる!そういう経験を経た人たちが、商業作品の現場にいるのだと思います」と語る。これまで経験した様々な表現が、今の演技力のベース。「ダンス、演技、映画と用いる技術や知識はそれぞれ違いますが、全てに言えるのは“心を捉える事”だと思います。自分が何に反応し心が動くのか、人の心が動くのか、面白いのか、をいつも探しています。目標は「死ぬまで俳優として生きること」。これからどんな風に観客の心を捉えてくれるのか、期待が高まる。



**Profile** 1987年広島県生まれ。東京フィルムセンター映画・俳優専門学校を卒業後、俳優活動を始める。舞台、商業作品に参加しながら、自主製作団体Engawa Films Projectで多数の短編映画を製作。2017年は公開待機作が5本控えている。



マールフィルム  
キャスティングディレクター  
杉山麻衣のコメント

『ケンとカズ』を観て、激しい中にもどこか繊細さを感じさせる毎熊さんに一目惚れしてしまい、その日のうちに、キャスティングを担当していた映画のオファーをしました。映画での暴力的で乱暴なキャラクターがとてもリアルで、そういった方々なかなかドキドキしていたら、実際はとても穏やかな方で驚きました。ご本人のイメージに近い、優しいお父さん役など柔らかいキャラクターでもキャスティングしてみたいです。声に色気があるので、ナレーションのお仕事も向いているのかなと思います。

**Profile** 愛知県出身。主に映画や舞台のキャスティングを担当。最新作:『新宿スワンII』(園子温監督)2017年1月21日全国ロードショー。マールフィルム公式HP <http://marblefilm.jp/>